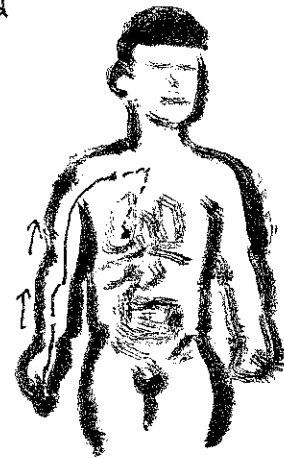


(このからだはうまくでき
てるといふことがある)

経絡とは人体の気血水が流れる際の通路である。気血水は経絡を通じて全身に輸布し、臓腑・器官・組織・四肢などが互いに連絡し合うよすがとして、これらが温められ、滋養される働きをもつ。これに人は経絡を通じて、一つの統一体としての調和を保っている。また正常な気血水だけでなく、病邪も経絡を通じて侵入し伝播して臓腑を侵襲する。

現代医学は、神経系、血管、リンパ管とホルモンの働きで説明するがこれだけでは経絡のもつ働きを全て説明することはできない。経絡は漢方の独特の重要な基礎知識で、現代医学ではゆみらないような現象を理解できるので、漢方のとらえ方で人体の健康・病気の理解が広く深くなり、現代医学を補い得るものとなる。

経絡には正経と奇経がある。正経には十二系統あり、それぞれの経絡は各臓腑と直接連絡しており、各経絡相互間に表裏内外のつながりや同気相互(同じ気)による表裏・内外のつながりがあること。例えば肺と大腸が同じ気による(通じている)の関係があって相連しており、また気血は十二経絡を一定の順序に従い、一定の速度で循環している。十二経絡とは手太陰肺経、手陽明大腸経、手厥陰心包経、手少陽三焦経、手少陰心経、手太陽小腸経、足太陰脾経、足厥陰肝経、足陽明胃経、足少陽胆経、足少陰腎経、足太陽膀胱経である。



手太陰肺経

また四肢の内側に巡るのが陰経で、「陰は上る」と四肢末端から頭・頸部領域に上行しており、四肢の外側(背側)に巡るのが陽経で、「陽は下る」と頭・頸部領域から四肢末端に下行している。

奇経は八系統あり、正経を上下・左右に連絡もつようにバイパスの役割をもってそれぞれの経絡を、さらに密な関係としている。

これ各経絡には経穴(ツボ)があり、各々特有の働きをもつから経絡全体を気血が流れている。常に経絡は流れていることで健康を生成しており、痛みなどの症状を惹起されることもない(通則不痛という)し、流れが経穴で滞っていると痛みほどが起る(不通則痛という)わけだ。その経穴を針治療や指圧などで刺激してやると流れがよくなるので症状もアッという間もなく改善されることになる。

当院でもツボ注射をしておりますのでお声かけ下さい。